

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第51号 2019年11月

もくじ

子ども環境学習の支援活動について-2009～2019-	藤井卓
都市の自然環境の保全(前編)	玉木幸裕
はけと野川の自然が危ない-小金井3・4・11号線の問題点-	若林高子
明電舎東京地区グリーン化プログラム	昆野俊男

子ども環境学習の支援活動について-2009～2019-

MECC会員 藤井卓



岩石のマイ標本を作ろう

富川昌美さんが主宰する「むさしの・こどもエコフォーラム」の子ども環境学習の活動を支援する形で、われわれMECC会員が種々のイベントに参加してきました。参加MECC会員としては、富川昌美(むさしの・こどもエコフォーラム代表)、寺木秀一、泉浩二、前田研二郎、澄川沃(2014年逝去)の諸氏と私でした。過去10年間の活動を振り返ってお伝えします。

われわれの活動のそもそもの始まりは、武蔵野市主催の「むさしのサイエンスフェスタ2009」に出展する「むさしの・こどもエコフォーラム」の活動支援からでした。テーマは「多摩川の石から武蔵野のできかたを探ろう-岩石のマイ標本を作ろう-」、そのために多摩川へ行って、展示用の岩石を採取することから始めました。

以来毎年イベントに参加して支援活動を行って、今年で10年となりました。以下、私が参加したイベントを示します(①参加年月日②イベント名称③展示テーマ④ブログURL)

- ・2009.10.17. 「むさしのサイエンスフェスタ2009」、「多摩川の石から武蔵野のできかたを探ろう-岩石のマイ標本を作ろう-」
<https://wisterwell.exblog.jp/9189208/>
- ・2011.11.03. むさしのサイエンスフェスタ2011「化石のレプリカを作ろう」
<https://wisterwell.exblog.jp/14010159/>
- ・2012.09.25. 武蔵野市立関前南小学校・土曜学校サイエンスクラブ「アンモナイト化石のレプリカ作製」
- ・2012.11.23. むさしのサイエンスフェスタ2012「化石のレプリカをつくろう-化石は地球のタイムカプセル-」
<https://wisterwell.exblog.jp/16873717/>
- ・2013.01.19. 「武蔵野市立関前南小学校「野鳥のお話と鳥型ヒコーキ工作」
<https://wisterwell.exblog.jp/17225461/>
- ・2013.03.03. 多摩川化石採取調査(要望の多い化石採取の可能性検討のため現地および交通状況調査実施。大勢の児童移動は困難であり現場は河川で安全確保に難あって残念ながら現地イベント断念)
- ・2013.11.27. むさしのサイエンスフェスタ2013「化石のレプリカを作って地球の歴史を探ろう」
<https://wisterwell.exblog.jp/19058786/>
- ・2014.11.08. 武蔵野市西久保コミセン・こども科学実験教室「化石のレプリカをつくろう!化石がおしえてくれること、地球・人類の歴史をさぐる」

・2014.11.10. むさしのサイエンスフェスタ
2014「化石のレプリカを作って地球の歴史を探ろう」

<https://wisterwell.exblog.jp/20568364/>

・2015.11.07. 「むさしのサイエンスフェスタ
2015「化石のレプリカを作って地球の歴史を探ろう」

<https://wisterwell.exblog.jp/21822570/>

・2016.11.03. 「むさしのサイエンスフェスタ
2016「化石のレプリカを作って地球の歴史を探ろう」

<https://wisterwell.exblog.jp/237141747/>

・2017.08.20. むさしの・こどもエコフォーラム
創立10周年記念イベント：夏休み親と子の学習会「地球の歴史と生物の進化」

<https://wisterwell.exblog.jp/237633298/>

・2019.08.25. むさしの・こどもエコフォーラム：
夏休み親と子の学習会「地球の歴史と生物の進化 地球・生物 46億年の旅」

<https://wisterwell.exblog.jp/239652862/>



2019 夏休み親と子の学習会

活動を示す写真などはブログにアクセスしてご覧くださいようお願いいたします。

なお、今年も11月3日に「むさしのサイエンスフェスタ2019」に参加する予定となっておりますが、MECC会員として今後とも子ども達のため環境学習に少しでもお役に立てることを願うとともに、環境学習への支援活動が末永く継続されることを心から期待しております。

都市の自然環境の保全(前編)

環境カウンセラー 玉木幸裕

私が自然環境保全の取り組みを始めたのは、勤務先の工場環境モニタリング業務を担当し公害防止主任管理者代理だった頃、環境カウンセラーに登録し参加した研修で「生物多様性」という用語を知ったからであった。

同年公表された第三次生物多様性国家戦略では「過去100年の間に破壊してきた国土の生態系を100年かけて回復する」(「第三次生物多様性国家戦略」報道発表資料)と宣言されていてNPO等とともに事業者の参加も求められていた。研修会で知り合った生態系保全の専門家を工場に招き講演会を開催し、従業員の啓蒙を図るとともに工場緑地の活用についてアドバイスを受け、工場長に具申してささやかではあったが樹木の一部伐採など改善施策の実施に繋がった。

その後、事業者に求められる活動はさらに多様化し、事業場が立地する地域の生態系保全にも及ぶようになった。

大手事業者が欧米に倣って取り組みを始めた生態系の保全活動は、国内の法令・方針の整備に沿って経団連が指針を作成するなど進展を経て事業者参加の認知が高まった。工場が広い緑地を保有する場合、自治体が域内緑地・公園を生物多様性の保全に役立てる目的で設置した協議会に参加を求められた。ここでは都市(市政区域)生態系の広域ネットワークづくりの試みが行われた。この協議会には、大学等研究機関の専門家、NPOや地域の自然愛好家等の市民団体が参画。事業者が加わる場合、まず情報共有で十分なコミュニケーションと相互信頼を形成する段階があり、過去の公害問題の解決の過程で地域住民との対立から相互理解へと進めたノウハウが生かされていた。市民団体と事業者が協調して参加する試みは事業者の計画遂行能力や効率性の高さ等から継続的に一定の成果を得ることが可能なひとつのロールモデルとして期待できた。

さて、都市においても自然環境の残された河川は、草花が風景を飾る土手や生き物を探して遊ぶ水辺など、お年寄り、子供など世代を問わず地域住民の憩いの場でありまた自然学習の場である。一方、河川の都市におけるもう一つの重要な役割は、多くの場合点在する緑地・公園など分断された生態系のコリドーとして機能することである（「生物多様性時代の公園緑地」亀山章 東京農工大教授（当時）平成20年11月7日（社）北九州緑化協会シンポジウム講演資料）。

過去には河川下流域を中心に主に治水の観点から川は直線化されコンクリート壁等の垂直あるいは傾斜の強い護岸が施工され植生を全く伴わない区間が生じた。後には護岸壁の緑化が図られた。

しかし平成9年に河川法が改正され治水、利水と並び河川環境の整備と保全が河川管理の対象となって以降、「多自然川づくり」の名称で河川の自然再生が進められ、中流域では新たな護岸工事や改修工事においては自然再生型の新たな視点で工事が実施されることになり、自然環境の保全は成果を挙げてきた（「河川法改正20年多自然川づくり推進委員会」提言がとりまとめられました。平成29年6月16日国土交通省）。



土手／河原／護岸の組合せ

（後編に続く）

はけと野川の自然が危ない

—小金井3・4・11号線の問題点—

MECC 会員 若林 高子

東京都は「都市計画道路の整備方針」で今後10年以内に整備する優先整備路線に小金井3・4・1号線と小金井3・4・11号線を位置づけました。方針見直しを求める声が高まっていますが、都は事業化に向けて着々と歩みを進めています。ここで先行建設予定の小金井3・4・11号線の問題点を指摘します。

小金井3・4・11号線は都立小金井公園の南を南下し、はけの森から野川をコンクリートの高架橋で越え、都立武蔵野公園内を通過、府中運転免許試験場の東側で都道14号線（東八道路）につながる道路です。このあたりは都立武蔵野公園の森とくじら山下原っぱとそれに続く野川、対岸にはかつての水田跡が草原として広がり、国分寺崖線のはけの森が続く、都内では珍しく豊かな自然が残っています。

この豊かな自然環境を守るため、多くの市民が長い間、自然観察会や植物調査などを継続的に実施してきました。その結果、洪水調節用につくられた野川第一・第二調節池は国の「自然再生地区」に指定され、生物多様性が回復しています。

植物約400種、昆虫約250種、鳥類約40種が確認され、希少種は96種（レッドデータブック東京2013掲載種）に上ります。

また、都立武蔵野公園は、都内の街路樹や公園用に大小3万本の苗圃があり、さまざまな樹木を育てており、地下には雨水貯留施設もつくられています。

このような場所にコンクリートの道路を造れば、小さな植物や昆虫類はたちまち絶滅してしまうでしょう。いったん破壊されてしまえば再生は不可能です。

私たちは、声なき声に耳を傾け、小さな生き物たちの代弁者となって、この貴重な自然を次の世代に引き継ぐ責任があります。都立公園は小金井市民のみならず都民、さらに国民にとっても大事な財産です。環境カウンセラーの方々もぜひ関心をもって、見直しに向けて声を上げていただきたいと思います。これからは紅葉も一段と美しくなる季節。ぜひ、現地を見に来て下さい。



都の整備イメージ

明電舎東京地区グリーン化プログラム

MECC 会員 昆野 俊男

昨年に引き続き、(株)明電舎東京地区グリーン化プログラム(GP)に参加しています。(株)明電舎様は毎年、明電舎の事業所のある各地区でGPを開催してエコアクション21の普及促進を図っている有力な企業になっています。2019年度も東京地区のGPでは環境省の補助事業であるCO2削減プログラム(Eco-CRIP)を併用して右記の研修会スケジュールに示すようにGPとして集合研修3回とEco-CRIPとして戸別訪問3回以上を予定しています。GPもEco-CRIPも環境マネジメントシステムを構築する支援は両者に差異がありません。しかし具体的な取組ではEco-CRIPはCO2排出量と経費削減に特化しており、的を絞った実践的な環境経営になっています。一方GPはエコアクション21ガイドラインに沿ったPDCAで環境経営を構築しようとしています。

したがって今回はEco-CRIPでは省エネルギーの取組でCO2排出量と経費削減を実感して環境経営の仕組を理解していただき、GPでは体系的な取組をして環境経営を構築すべく両面で進めています。

2019年度の東京地区の参加事業者は8社で、製造業2社、建設業(設備工事業を含む)3社、卸売業・小売業1社、運輸業・倉庫業1社、廃棄物処理業・リサイクル業1社と多業種が参加しております。それに対応するために地域事務局東京中央から選任された3人のEco-CRIP支援相談人の資格を持つ審査員がそれぞれ1回の集合研修担当を受け持ち、戸別訪問でも2人の審査員が3社、1人が2社を受け持って対応しています。



2019年度(株)明電舎東京地区エコアクション21グリーン化プログラム等研修会スケジュール

支援方法	日程	場所	説明内容	配布資料、確認・指導	形式
GP第1回	集合研修 6/12(水)	(株)明電舎 五反田事務所	・エコアクション21概要 ・ガイドライン2017年版 要求事項1~4	・要求事項1~4ひな型	・質疑応答 ・持ち帰り作成
GP第2回	集合研修 7/12(金)	(株)明電舎 五反田事務所	・ガイドライン2017年版 要求事項5~9	・要求事項5~9ひな型	・質疑応答 ・持ち帰り作成
Eco-CRIP 第1回	戸別訪問 2019/8	参加事業者の 会議室	・Eco-CRIPの手引き ・ガイドライン2017年版 要求事項10~11	・要求事項10~11ひな型 ・GP第1.2回の進捗状況の 確認・指導	・現地確認及び 現状確認・指導
運用開始		2019/8~	実施・運用(環境経営計画)		
Eco-CRIP 第2回	戸別訪問 2019/9	参加事業者の 会議室	・Eco-CRIPの手引き ・ガイドライン2017年版 要求事項12~13	・要求事項12~13ひな型 ・GP第2回、Eco-CRIP第1回 の進捗状況の確認・指導	・現状確認・指導
Eco-CRIP 第3回	戸別訪問 2019/10	参加事業者の 会議室	・Eco-CRIPの手引き ・ガイドライン2017年版 要求事項14	・要求事項14ひな型 ・Eco-CRIP第1.2回の進捗 状況の確認・指導	・現状確認・指導
GP第3回	集合研修 11/14(木)	(株)明電舎 五反田事務所	・ガイドライン2017年版 要求事項:環境経営レ ポート作成 ・審査申込書の書き方	・要求事項環境経営レ ポートひな型 ・審査申込書	・質疑応答 ・持ち帰り作成
必要な場合 Eco-CRIP 第4回	戸別訪問 2019/12	参加事業者の 会議室	・審査の対応	・全文書類の確認・指導 ・Eco-CRIP書類の確認 指導	・確認・指導
審査申込:2019/12~ → 審査:2020/1.2 → 判定委員会:2020/2.3 → 認証・登録表彰:2020/4					

ただ、多業種のために集合研修ではエコアクション21ガイドライン2017年版を主体で説明しましたが、業種別ガイドライン(建設業者向けガイドライン2017年版、産業廃棄物業者向けガイドライン2009年版)もおりませため分かり難い説明になったような気がします。

一方、(株)明電舎東京地区GP等研修会スケジュールでは、研修会に参加した事業者が認証・登録されることを3月末と見込んで4月に表彰する日程を組んでおります。私共審査員は、参加事業者が3カ月の運用期間後に計画的に環境経営レポート等をまとめて、12月中には申込みができるよう最大限の支援をしていきたいと思っております。

まだまだスケジュール通りの支援には超えるべき山がありますが、苦勞して支援した参加事業者が認証・登録されることは私共審査員にとっては大きな喜びでもあります。全参加事業者が認証・登録されることを期待しています。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 稲田 昂
TEL：042-646-3822
ホームページ：<http://www.mecc.or.jp/>
編集者：望月 眞